

仏教の主要宗派でつくる全日本仏教会が、インターネットを通販大手のアマゾンジャパンに出品されている「お坊さん便」の販売中止を求めている。定額の「お布施」で法事などに僧侶を手配するサービスは「宗教性を損なう」と反発したわけだが、宗教法人の経理は依然として不明朗だ。寺離れが進む中、仏教界の変革は「待ったなし」ではないのか。自ら収支報告書などを公開している住職らに実情を聞き、仏教とお金の問題を考えた。

# 経理透明化 時代の流れ

埼玉県熊谷市の曹洞宗見性院。境内に足を踏み入れ

「お布施一覧」が目に飛び込んでくる。お盆供養千円、三回忌の法事三万円、通夜・葬儀・初七日・戒名などセットで三十万円…。住職の橋本英樹さん(五〇)は「明朗会計」の狙いを説明する。「仏教界はこれまで、宗教行為に値段が付けていくことを逆手に取り、「お気持ち」という曖昧な言葉で高額な布施を受け取ってきた。今の時代、透明性が求められる」

## 仏教とお金を考える

アマゾン「お坊さん便」  
波紋

なう」なんて詭弁。お守りやお札は金額が明示されてるのに、布施だけ例外なのはおかしい」と憤る。

掲示板に張られた「お布施一覧」を前に、「座禅会や写経会で地域とつながりを持ち、仏教の教えを積極的に広めることができ」と説く橋本英樹さん=埼玉県熊谷市で



**檀家廃止、お布施定額化** 埼玉の寺、収入倍増

ンを食つた。寺の会計は長年ブラックボックスでしたからね。「僧侶が布施を手ではなく懐に入れているのではないか」と疑われる時は、経理がペールに包まれているから。一石を投じたくて今計をガラス張りにした

一四年度の收支計算書を見ると、収入九千九百八十八万円のうち、「布施・墓地」が九千四百十一万円を占める。内訳は、信徒の葬

にも「寺を支えるのが檀家の役目だと教えられてきたが、廃止されて窮屈さがなくなつた」と好意的だ。

そして一四年、自著『お寺の収支報告書』で寺の収支計算書や財産目録を公開。所管の埼玉県学事課に提出する書類が公になつたことで波紋を広げた。周りの寺からは「何で」とをしてくれたんだ」と総スカウト

統いて一二年には、檀家制度を「布施や寄付金の強要システムになつてゐる」として廃止し、会費のいらない信徒制度に切り替そ

る。布施の定額化に踏み切ったのは一〇年ほどだ。副住職時代、派遣会社などを通じて他の寺の法要を手伝つていたが、当時から「一般の人はいくら払えばいいか分からず、雲をつかむ思いで寄進しているのでは」と考へていたからだ。

にも「寺を支えるのが檀家の役目だと教えられてきたが、廃止されて窮屈さがなくなつた」と好意的だ。

施の金額がはつきり示され  
て気が楽になった。収入が  
一億円近くもあることには  
驚いたが、運営に相当なお  
金がかかっているなど、寺  
の経営状況が分かった」と  
歓迎する。檀家制度の廃止

社員扱いの僧侶やパート従業員の給与に充てられる。急激な情報公開や檀家制度の廃止に周囲は戸惑わなかつたのか。

儀や法事で受け取った布施が二千万円、永代供養での布施が千九百万円、墓地の分譲収入が一千五百万円。一方の支出では、葬儀や法事などの費用五千四百三十万円や給料千三百七万円が大きい。給料は橋本さんが